

教育研究上の目的

人間福祉学科では、人間の幸福な生活を支える社会福祉学を基礎とし、「健康」・「食」・「栄養」という複数の分野と連携しながら、ポジティブでリスク予防的な観点をもって、人間一人一人にとってのQOL（生活の質）向上の追求（追究）を目指して、相談援助・保育・介護に関する知識や技術を実践する能力を備えた人材の養成を、教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 福祉や健康に関する知識を広く持ち、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的に探究しつづける能力を有している。
2. 人間の尊厳と基本的人権を尊重し、地域共生社会の実現の重要性を理解し、連携・協働する力を有している。
3. 現代社会や福祉に広く関心を持ち、個人の生活課題や地域社会の課題を的確に捉え、自身の考えを持ち、解決に向けて取り組む力を有している。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 人間の尊厳と基本的人権の尊重を踏まえ、社会福祉の法や制度面についての基本及び支援を必要とする人々への支援に関して、基本的な捉え方を理解し説明することができる。
2. 支援を必要とする人々に対するコミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくり進めていくことができる。
3. 現代社会や福祉の問題やその背景を構造的に捉え、乳幼児から高齢者までの生涯にわたる生活課題や地域課題を見出し、人権尊重の意味を理解したうえで、問題の解決の方向性を科学的根拠をもって説明することができる。

②思考力・判断力・表現力

1. 統計や実証研究等の結果について理解し、科学的根拠をもって、援助・支援にあたる論理的思考力を身につけている。
2. 実習・演習教育を含めた他者との関わりから意識的に、また自ら内省する姿勢を持ち、自己覚知を深めることができる。
3. 自分が体験したことや得られた知識を分かりやすく他者に表現し、社会に発信することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と倫理を身につけている。
2. お互いに自身の考えを伝えあい、多様な価値観や立場を認めながら、協働に向けて、自らの考えや集団の考えを高め発展させることができる。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、地域社会・福祉社会形成へむけて自ら参画していくことができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

社会福祉基礎科目

1. 社会福祉に関連する主要な法・制度及び、人と社会に関する基礎的知識を修得させる。
2. 社会福祉に関する現状とその課題を構造的に捉え、自分の見解を形成し、客観的かつ論理的に表現できる力を育成する。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重について理解を深め、諸問題に対して批判的見解を持つことができる力を育成する。

ソーシャルワーク専門科目

1. 社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を体系的に理解させ、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を習得させる。
2. 専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得させる。
3. 生活課題や地域課題に対する相談援助の展開過程及び包括的支援について実践的に理解させ、それらを遂行する能力及び協働する力を育成する。
4. 事例分析や先駆的实践を通して、ソーシャルワークのあり方や専門職倫理を理解させ、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け、問題意識を自ら持てる姿勢を身につけさせる。

介護福祉専門科目

1. 介護福祉における生活支援を必要とする人に関する理論を理解させ、実践の基本的枠組みを習得させる。
2. 生活支援を必要とする人との信頼関係を構築していくための自己覚知を深め、個別ケアに向けた介護実践への理解を深め実践に汎用できる能力を習得させる。
3. 介護福祉に関する専門的な理論や知識を統合し、他職種と協働のもと多様性を尊重した介護を実践し、地域づくりに寄与できる能力を育成する。

保育専門科目

1. 講義やグループワーク等を通して、保育に関する法・制度の概要を理解させ、子どもの最善の利益及び児童の発達に即した保育を展開することができる基本的態度を育成する。
2. 事例検討・グループワーク、実習経験等を通して、他者との関わりから自ら内省する姿勢を持つとともに自己覚知を深め、専門的な理論と実践を統合し、保育を構想する力を育成する。
3. 事例研究、グループワーク、調査研究等を活用して、子どもや子育てを取り巻く現状・課題についてその背景を構造的に捉え、子どもの最善の利益という価値に基づき、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と技術を身につけさせる。

社会福祉実践科目

1. 学生自身が学習到達目標を設定し、それを達成できるように、主体的に取り組むことができ、また、実習経験や実習後の学習成果を言語化し、一般化・理論化できるまでに理解を深め、他者にプレゼンテーションすることができる能力を習得させる。

2. 「社会福祉基礎科目」及び「ソーシャルワーク・ケアワーク・保育専門科目」によって習得した知識や技術を統合し、実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解したうえで、信頼関係の構築や指導・支援計画の立案や実施、多職種協働、評価方法について、スーパービジョンを行いながら実践的に習得させる。
3. 人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと多様な価値観や立場を認めながら、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得させる。

社会福祉展開科目

1. 福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
2. 多様な価値観を認め合いながら福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。
3. 時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を涵養させる。

演習・卒業研究

1. 主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高めたり、協働に向けた取組みや地域活動に参画することができる力を涵養させる。
2. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について、適切な研究方法を考え論述することができる力を育成する。
3. 人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述したものや制作したもの、体験したことを他者や社会に発信・プレゼンテーションする能力を習得させる。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

人間福祉学科 カリキュラムマップ

人間福祉学科 カリキュラムマップ		→ 必修科目				→ 介護のみ		→ 保育のみ	
領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次				
社会福祉基礎科目	・社会福祉に関連する主要な法・制度及び、人と社会に関する基礎的知識を修得させる。 ・社会福祉に関する現状とその課題を構造的に捉え、自分の見解を形成し、客観的かつ論理的に表現できる力を育成する。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重について理解を深め、諸問題に対して批判的見解を持つことができる力を育成する。	社会福祉概論Ⅰ 社会福祉概論Ⅱ 子ども家庭福祉論 障害者福祉論 医学一般 ソーシャルワーク論Ⅰ	高齢者に対する支援と介護保険制度 権利擁護と成年後見制度 社会的養護Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	心理学理論と心理的支援 社会保障論Ⅰ					
		相談援助演習Ⅰ	ソーシャルワーク論Ⅱ 公的扶助論 ソーシャルワーク論Ⅲ 地域福祉論Ⅱ 社会調査の基礎 社会理論と社会システム 相談援助演習Ⅱ	ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅴ 保健医療サービス論 社会保障論Ⅱ 更生保護制度 社会福祉施設経営論	ソーシャルワーク論Ⅵ				
ソーシャルワーク専門科目	・社会福祉や隣接分野に関連する法・制度を体系的に理解させ、相談援助の展開過程に必要な理論や技術を習得させる。 ・専門的援助関係を形成していくうえで必要な自己覚知を深め、相談援助における基礎的なコミュニケーション技術や面接技術を実践的に習得させる。 ・生活課題や地域課題に対する相談援助の展開過程及び包括的支援について実践的に理解させ、それらを遂行する能力及び協働する力を育成する。 ・事例分析や先駆的实践を通して、ソーシャルワークのあり方や専門職倫理を理解させ、人々の生活課題や困難性の背景にある現代社会の諸問題に対し常に目を向け、問題意識を自ら持てる姿勢を身につけさせる。								
介護福祉専門科目	・介護福祉における生活支援を必要とする人に関する理論を理解させ、実践の基本的枠組みを習得させる。 ・生活支援を必要とする人との信頼関係を構築していくための自己覚知を深め、個別ケアに向けた介護実践への理解を深め実践に汎用できる能力を習得させる。 ・介護福祉に関する専門的な理論や知識を統合し、他職種と協働のもと多様性を尊重した介護を実践し、地域づくりに寄与できる力を育成する。	介護福祉論Ⅰ 介護福祉論Ⅱ 介護コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術概論 日常生活支援技術Ⅰ 日常生活支援技術Ⅱ 日常生活支援技術Ⅲ 介護過程基礎 発達と老化Ⅰ 発達と老化Ⅱ 介護総合演習Ⅰ 介護実習Ⅰ	介護と倫理 介護コミュニケーション技術Ⅱ 生活環境支援技術 家事生活支援技術 生活支援技術応用Ⅰ（障がいⅠ） 生活支援技術応用Ⅱ（障がいⅡ） 生活支援技術展開Ⅰ（余暇支援） 介護過程展開 介護過程実践Ⅰ（高齢者領域） 認知症の理解Ⅰ 認知症の理解Ⅱ 障がいの理解Ⅰ 障がいの理解Ⅱ こころとからだのしくみⅠ こころとからだのしくみⅡ 介護総合演習Ⅱ 介護実習Ⅱ	介護と環境 生活支援技術展開Ⅱ（内部障害） 介護過程実践Ⅱ（障がい者領域） 介護過程実践Ⅲ（ケアマネジメント） 医療を必要とする人への介護Ⅰ 医療を必要とする人への介護Ⅱ 医療を必要とする人への介護Ⅲ 医療を必要とする人への介護Ⅳ 介護総合演習Ⅲ 介護総合演習Ⅳ 介護実習Ⅲ					

保育専門科目	・講義やグループワーク等を通して、保育に関する法・制度の概要を理解させ、子どもの最善の利益及び児童の発達に即した保育を展開することができる基本的態度を育成する。 ・事例検討・グループワーク、実習経験等を通して、他者との関わりから自ら内省する姿勢を持つとともに自己覚知を深め、専門的な理論と実践を統合し、保育を構想する力を育成する。 ・事例研究、グループワーク、調査研究等を活用して、子どもや子育てを取り巻く現状・課題についてその背景を構造的に捉え、子どもの最善の利益という価値に基づき、解決へ向けた方法の提案や行動につなぐことのできる専門性と技術を身につけさせる。	保育原理 保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 保育内容総論 保育内容演習Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅰ（健康） 保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係） 保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）	教育原理 子どもの保健 子どもの健康と安全 子どもの食と栄養 保育内容演習Ⅱ（人間関係） 保育内容演習Ⅲ（環境） 保育内容演習Ⅳ（言葉） 保育内容の理解と方法Ⅲ（環境） 保育内容の理解と方法Ⅴ（表現） 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 障害児保育 社会的養護Ⅱ 子ども家庭支援論 発達障害の理解 保育実習指導Ⅰ	保育者論 保育の計画と評価 保育内容演習Ⅴ（表現） 社会的養護Ⅲ 子育て支援Ⅰ 子育て支援Ⅱ 保育と行政 保育実践演習 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ	
		ピアノ			
社会福祉基礎科目	・学生自身が学習到達目標を設定し、それを達成できるように、主体的に取り組むことができ、また、実習経験や実習後の学習成果を言語化し、一般化・理論化できるまでに理解を深め、他者にプレゼンテーションすることができる能力を習得させる。 ・「社会福祉基礎科目」及び「ソーシャルワーク・ケアワーク・保育専門科目」によって習得した知識や技術を統合し、実習で関わる対象者の理解を深め、専門職の役割について理解したうえで、信頼関係の構築や指導・支援計画の立案や実施、多職種協働、評価方法について、スーパービジョンを行いながら実践的に習得させる。 ・人々との関わりを通して、専門職としての自己覚知を深め、個々への尊厳のもと多様な価値観や立場を認めながら、各専門職として求められる資質、価値、倫理等、総合的に習得させる。		相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ	相談援助実習指導Ⅲ 社会福祉実習	
			相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ		
社会福祉展開科目	・福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。 ・多様な価値観を認め合いながら福祉分野横断的な理解と、ソーシャルワークの専門的展開に関する理解を促進させる。 ・時代や社会の変化に伴う福祉課題の変化を踏まえて、常に新しい課題に関心と意欲をもって、専門職として学び続ける態度を涵養させる。	福祉と食 介護基礎	行政福祉総論 行政福祉演習Ⅰ	行政福祉演習Ⅱ 行政福祉演習Ⅲ 医療ソーシャルワーク論 ケア論 福祉行財政と福祉計画	行政福祉演習Ⅳ ソーシャルワーク特論
		手話	多職種連携入門		
演習・卒業研究	・主体的に広く社会福祉の課題に関心を持ち、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高めたり、協働に向けた取組みや地域活動に参画することができる力を涵養させる。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について、適切な研究方法を考え論述することができる力を育成する。 ・人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある、自己の社会福祉への課題について論述したものや制作したもの、体験したことを他者や社会に発信・プレゼンテーションする能力を習得させる。		人間福祉基礎演習	人間福祉演習	卒業研究
COL	人間福祉学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 福祉や健康に関しての知識を広く持ち、「健康で幸福な生活【健幸】」の実現の意味を全人的・社会総合的に探究しつづける能力を有している。 2. 人間の尊厳と基本的人権を尊重し、地域共生社会の実現の重要性を理解し、連携・協働する力を有している。 3. 現代社会や福祉に広く関心を持ち、個人の生活課題や地域社会の課題を的確に捉え、自身の考えを持ち、解決に向けて取り組む力を有している。				
COL	人間福祉学科では、社会福祉の学びを基礎とし、学科全員が共通に学ぶ「社会福祉基礎科目」、目指す専門性に応じて選択する「ソーシャルワーク専門科目」「介護福祉専門科目」「保育専門科目」、知識・技術の統合を図る「社会福祉実践科目」、福祉専門職としての資質向上や学部共通理念である【健幸】への学びを深める「社会福祉展開科目」「演習・卒業研究」を設ける。				

人間生活学部 人間福祉学科 (ND)

専門科目教育課程 2025年度生

科 目 群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必 修	27単位	90単位以上
	選 択	63単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目9単位、選択必修科目6単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目27単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修すること
- 選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!??

- 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目63単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目70単位取得した場合は、7単位分が自由選択科目の単位となる
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせ（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分	授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (○…重要な目的としている ○…主な目的としている)											
		必修	選択						社会福祉に関する基礎的知識を修得するための理解	社会福祉に関する専門的知識を修得するための理解	科学的根拠をもとに援助支援に必要となる専門的知識を修得するための理解	問題解決のための専門性・倫理的理解	専門的援助関係の基本的理解と形成	自己覚知	体験的理解と	多様な価値観を尊重する態度	課題を向けようとする態度	課題の積極的推進	表現・発信	地域社会・福祉社会形成への参画する意欲
社会福祉基礎科目	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	前後	1年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	社会福祉概論Ⅱ	2		講義	前後	1年	×		○	○	○						○	○	○	○
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		講義	前	2年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	子ども家庭福祉論	2		講義	前	1年	×			○	○						○	○	○	○
	障害者福祉論	2		講義	後	1年	×	* }	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医学一般	○●2		講義	前	1年	×		○	○	○						○	○	○	○
	権利擁護と成年後見制度	○●2		講義	後	2・3年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	心理学理論と心理的支援	○●2		講義	前	3年	×		○	○	○						○	○	○	○
	社会保障論Ⅰ	2		講義	前	3年	○	* }	○	○	○						○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義	後	1年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク専門科目	社会的養護Ⅰ	▲2		講義	前	2年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	地域福祉論Ⅰ	2		講義	前	2年	×		○	○	○						○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義	前	2年	×	* }	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅲ	○△2		講義	後	2年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅳ	○△2		講義	前	3年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅴ	○△2		講義	後	3年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク論Ⅵ	○△2		講義	前	4年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域福祉論Ⅱ	○△2		講義	前	2年	×		○	○	○						○	○	○	○
	社会調査の基礎	○2		講義	前	2年	×	* }		○	○						○	○	○	○
	社会理論と社会システム	○2		講義	後	2年	×		○	○	○						○	○	○	○
介護福祉専門科目	公的扶助論	2		講義	前	2年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	保健医療サービス論	○2		講義	前	3年	×		○	○	○						○	○	○	○
	社会保障論Ⅱ	○●2		講義	後	3年	×	* }	○	○	○						○	○	○	○
	更生保護制度	○2		講義	後	3年	×		○	○	○						○	○	○	○
	社会福祉施設経営論	○2		講義	後	3年	×	* }	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談援助演習Ⅰ	○1		演習	後	1年	×		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談援助演習Ⅱ	○1		演習	前	2年	×	* }	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護福祉論Ⅰ	●2		講義	前	1年	×		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	介護福祉論Ⅱ	●2		講義	後	1年	×	* }	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	介護と倫理	●2		講義	前	2年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
介護福祉専門科目	介護と環境	●2		講義	前	3年	×	* }	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護コミュニケーション技術Ⅰ	●1		演習	後	1年	×		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護コミュニケーション技術Ⅱ	●1		演習	前	2年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活支援技術概論	●1		演習	前	1年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日常生活支援技術Ⅰ	●1		演習	前	1年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日常生活支援技術Ⅱ	●1		演習	後	1年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日常生活支援技術Ⅲ	●1		演習	後	1年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活環境支援技術	●1		演習	後	2年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	家事生活支援技術	●1		演習	前	2年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活支援技術応用Ⅰ(障がいⅠ)	●1		演習	前	2年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
介護福祉専門科目	生活支援技術応用Ⅱ(障がいⅡ)	●1		演習	後	2年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活支援技術展開Ⅰ(余暇支援)	●1		演習	前	2年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活支援技術展開Ⅱ(内部障害)	●1		演習	後	3年	×	* }	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	介護過程基礎	●2		講義	後	1年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護過程展開	●2		講義	前	2年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護過程実践Ⅰ(高齢者領域)	●1		演習	後	2年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護過程実践Ⅱ(障がい者領域)	●1		演習	前	3年	×	* }		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護過程実践Ⅲ(ケアマネジメント)	●2		講義	後	3年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発達と老化Ⅰ	●2		講義	前	1年	×	* }	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	発達と老化Ⅱ	●2		講義	後	1年	×		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
介護福祉専門科目	認知症の理解Ⅰ	●2		講義	前	2年	×	* }	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	認知症の理解Ⅱ	●1		演習	後	2年	×		○	○	○			○	○	○	○	○	○	○

I 学修
II 資格取得
III 人間生活学部
IV 教育人文学部
V 社務部
VI 教職課程
VII 諸課程
VIII 単位認定
IX 他大学の単位互換
X 大学院
XI 施設
XII Q & A
XIII 教務関連
学部のハンドブック

科目区分	授業科目	単位数		履修形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (○…重要な目的としている ○…主な目的としている)									
		必修	選択						社会福祉に関する基礎的知識の習得	社会福祉に関する専門的知識の習得	社会福祉に関する実践的知識の習得	社会福祉に関する科学的知識の習得	社会福祉に関する倫理的知識の習得	社会福祉に関する法的知識の習得	社会福祉に関する経済的知識の習得	社会福祉に関する文化的知識の習得	社会福祉に関する環境的知識の習得	社会福祉に関する国際的知識の習得
社会福祉実践科目	相談援助実習指導Ⅰ		1	演習	前後	2年	×		○									
	相談援助実習指導Ⅱ		1	演習	後通	2・3年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談援助実習指導Ⅲ		2	演習	通	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会福祉実習		4	実習	通	3・4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	相談援助演習Ⅲ		1	演習	後	2・3年	×		○		○	○	○	○	○	○	○	○
	相談援助演習Ⅳ		1	演習	前	3・4年	×				○	○	○	○	○	○	○	○
社会福祉展開科目	相談援助演習Ⅴ		1	演習	後	3・4年	×				○	○	○	○	○	○	○	○
	福祉と食		2	講義	後	1年	○		○		○	○				○	○	○
	行政福祉総論		2	講義	前	2年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行政福祉演習Ⅰ		1	演習	後	2年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行政福祉演習Ⅱ		1	演習	前	3年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行政福祉演習Ⅲ		1	演習	後	3年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	行政福祉演習Ⅳ		1	演習	前	4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ソーシャルワーク特論		2	講義	後	4年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	介護基礎		2	講義	後	1年	×			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	手話		2	講義	後	1・2・3・4年	×		○		○	○	○	○	○	○	○	○
	多職種連携入門		2	講義	前	2・3・4年	○					○	○	○	○	○	○	○
	医療ソーシャルワーク論		2	講義	後	3・4年	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○
	ケア論		2	講義	前	3年	×				○	○	○	○	○	○	○	○
	福祉行財政と福祉計画		2	講義	前	3年	×		○	○	○				○	○	○	○
演習	人間福祉基礎演習	1		演習	前	2年	×		○					○		○	○	○
	人間福祉演習	2		演習	通	3年	×			○		○			○	○	○	○
卒業研究	卒業研究	4		演習	通	4年	×									○	○	○

〔単位数欄の記号について〕
注：○印の科目は、社会福祉士の必修科目。 注：●印の科目は、介護福祉士の必修科目。
注：▲印の科目は、保育士資格の必修科目。 注：△印の科目は、保育士資格の選択必修科目。

〔「卒業研究」の履修について〕
注1：「卒業研究」を履修するには、「入門ゼミナール」、「人間福祉基礎演習」、「人間福祉演習」をすべて修得していること。
注2：「人間福祉演習」を履修するためには、60単位以上修得していること。

〔資格の履修について〕
注1：社会福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある○印の科目を全て履修しなければならない。
注2：介護福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある●印の科目を全て履修しなければならない。
注3：保育士資格取得希望者は必修科目に加えて単位数欄にある▲印の科目を全て履修しなければならない。さらに単位数欄にある△印から4単位以上履修すること。そのうち「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」、又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」のどちらか3単位以上を履修しなければならない。
注4：社会福祉士主任任用資格の取得のためには、備考欄に*印がついている科目のうち、3科目以上を履修しなければならない。
ただし、「社会福祉概論」「社会保障論」「地域福祉論」は「Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を、「ソーシャルワーク論」は「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」を合わせて取得して1科目の履修とする。

〔「保育のみ」の演習科目の履修について〕
注：備考に「保育のみ」と記載のある科目のうち、「演習科目」については、1クラスあたりの履修者数に法令上の上限があるため、原則として保育士資格取得希望者のみ履修可能とする。ただし、定員に空きがある場合に限って、他の学生の受講を認める。保育士資格を取得しない学生が履修を希望する場合には、事前に科目担当者に相談すること。

〔「介護のみ」の履修について〕
注：備考に介護のみと記載のある科目は、原則介護福祉士養成課程の学生のみ受講可。
介護福祉士養成課程以外の学生の受講に関しては、当該年度の養成課程の所属人数によって、1年次科目の受講は可とし、2年次以降の科目は科目担当者が判断する。（履修に関しては学生より直接担当教員へ相談すること）

1

社会福祉士国家試験受験資格 取得課程（人間福祉学科）

1

社会福祉士受験資格取得課程について

人間生活学部人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで厚生労働省が認可している国家試験の受験資格が取得できます。社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく資格です。本学において、指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

なお、国家試験受験資格は、社会福祉の施設や機関において相談援助業務などの専門職につく際に有利な条件となります。就職に有利となる職種は、以下のとおりです。

①老人福祉施設・児童福祉施設・障害者施設の生活相談員、生活指導員、児童指導員等

②在宅介護支援センターのソーシャルワーカー

③福祉事務所や更生相談所のケースワーカー

④児童相談所の児童福祉司・相談員

⑤社会福祉協議会や民間の福祉団体、福祉系NPOの職員

⑥民間の福祉関係事業所、福祉関連企業の社員

2 履修する上での注意事項

学科の履修相談において、事前の指導を受けてください。

【人間福祉学科 2025年度生（社会福祉・保育コース／社会福祉・介護福祉コース）】

人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。

社会福祉士国家試験受験資格を取得する場合は、下表の必修科目をすべて修得してください。

（この表における必修、選択などの区分は学科の卒業要件とは異なります。）

社会福祉士指定科目	本学開設科目	単位数		授業形態	履修期	配当学年	備 考
		必修	選択				
社会福祉の原理と政策（60h）	社会福祉概論Ⅰ	2		講義	前期	1	
	社会福祉概論Ⅱ	2		講義	後期	1	
ソーシャルワークの基盤と専門職（30h）	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		講義	後期	1	
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（30h）	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		講義	前期	2	
ソーシャルワークの理論と方法（60h）	ソーシャルワーク論Ⅲ	2		講義	後期	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2		講義	前期	3	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）（60h）	ソーシャルワーク論Ⅴ	2		講義	後期	3	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	2		講義	前期	4	
高齢者福祉（30h）	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		講義	前期	2	
障害者福祉（30h）	障害者福祉論	2		講義	後期	1	
児童・家庭福祉（30h）	子ども家庭福祉論	2		講義	前期	1	
地域福祉と包括的支援体制（60h）	地域福祉論Ⅰ	2		講義	前期	2	
	地域福祉論Ⅱ	2		講義	後期	2	
医学概論（30h）	医学一般	2		講義	前期	1	
社会福祉調査の基礎（30h）	社会調査の基礎	2		講義	前期	2	
社会学と社会システム（30h）	社会理論と社会システム	2		講義	後期	2	
貧困に対する支援（30h）	公的扶助論	2		講義	前期	2	
保健医療と福祉（30h）	保健医療サービス論	2		講義	前期	3	
社会保障（60h）	社会保障論Ⅰ	2		講義	前期	3	
	社会保障論Ⅱ	2		講義	後期	3	
権利擁護を支える法制度（30h）	権利擁護と成年後見制度	2		講義	後期	2・3	
刑事司法と福祉（30h）	更生保護制度	2		講義	後期	3	
心理学と心理的支援（30h）	心理学理論と心理的支援	2		講義	前期	3	
福祉サービスの組織と経営（30h）	社会福祉施設経営論	2		講義	後期	3	
ソーシャルワーク演習（30h）	相談援助演習Ⅰ	1		演習	後期	1	
ソーシャルワーク演習（専門）（120h）	相談援助演習Ⅱ	1		演習	前期	2	
	相談援助演習Ⅲ	1		演習	後期	2・3	
	相談援助演習Ⅳ	1		演習	前期	3・4	
	相談援助演習Ⅴ	1		演習	後期	3・4	
ソーシャルワーク実習指導（90h）	相談援助実習指導Ⅰ	1		演習	前期	2	
	相談援助実習指導Ⅱ	1		演習	後期	2・3	
	相談援助実習指導Ⅲ	2		演習	通年	3・4	
ソーシャルワーク実習（240h）	社会福祉実習	4		実習	通年	3・4	

2 介護福祉士国家試験受験資格 取得課程（人間福祉学科）

1 介護福祉士受験資格取得課程について

人間生活学部人間福祉学科の学生は、卒業に必要な単位を修めた他に指定科目を履修することで厚生労働省が認可している国家試験の受験資格が取得できます。

介護福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」に基づく資格です。本学において、指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

なお、介護福祉士資格、介護福祉士国家試験受験資格は、介護保険施設など各種社会福祉施設や機関において介護業務などの専門職につく際に必要な条件となります。

就職に有利となる職種は、以下のとおりです。

- ①高齢者施設、障がい・児童施設等の介護専門職・生活支援員
- ②在宅介護事業所の訪問介護専門職
- ③福祉機器関連企業等民間企業の介護専門職
- ④社会福祉協議会、事業団・NPO等の介護専門職
- ⑤高齢者、障がい者等にかかわる医療機関の介護専門職
- ⑥経験年数を活かし、ケアマネージャーや相談援助職

2 履修する上での注意事項

学科の履修相談において、事前の指導を受けてください。

【人間福祉学科 2025年度生（社会福祉・介護福祉コース）】

本学の人間福祉学科総合福祉・介護福祉コースは、介護福祉士養成施設です。

本学において、卒業に必要な単位を修め、他に指定科目を修めて卒業すると国家試験受験資格が得られます。

介護福祉士国家試験受験資格を取得する者は、次表の必修科目をすべて修得してください。

介護福祉士指定科目	本学開設科目	単位数		履修期	配当学年	備 考
		必修	選択			
「人間と社会」(240h)	社会福祉概論Ⅰ	2		前期	1	
	社会福祉概論Ⅱ	2		後期	1	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		後期	1	
	高齢者に対する支援と介護保険制度	2		前期	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		前期	2	
	社会保障論Ⅰ	2		前期	3	
	社会保障論Ⅱ	2		後期	3	
	権利擁護と成年後見制度	2		後期	2・3	
介護の基本 (180h)	介護福祉論Ⅰ	2		前期	1	
	介護福祉論Ⅱ	2		後期	1	
	介護と倫理	2		前期	2	
	障害者福祉論	2		後期	1	
	介護と環境	2		前期	3	
	地域福祉論Ⅰ	2		前期	2	
コミュニケーション技術 (60h)	介護コミュニケーション技術Ⅰ	1		後期	1	
	介護コミュニケーション技術Ⅱ	1		前期	2	
生活支援技術 (300h)	生活支援技術概論	1		前期	1	
	日常生活支援技術Ⅰ	1		前期	1	
	日常生活支援技術Ⅱ	1		後期	1	
	日常生活支援技術Ⅲ	1		後期	1	
	生活環境支援技術	1		後期	2	
	家事生活支援技術	1		前期	2	
	生活支援技術応用Ⅰ (障がいⅠ)	1		前期	2	
	生活支援技術応用Ⅱ (障がいⅡ)	1		後期	2	
	生活支援技術展開Ⅰ (余暇支援)	1		前期	2	
	生活支援技術展開Ⅱ (内部障害)	1		後期	3	
介護過程 (150h)	介護過程基礎	2		後期	1	
	介護過程展開	2		前期	2	
	介護過程実践Ⅰ (高齢者領域)	1		後期	2	
	介護過程実践Ⅱ (障がい者領域)	1		前期	3	
	介護過程実践Ⅲ (ケアマネジメント)	2		後期	3	
介護実習 (450h)	介護実習Ⅰ	2		後期	1	
	介護実習Ⅱ	4		後期	2	
	介護実習Ⅲ	4		前期	3	
介護総合演習 (120h)	介護総合演習Ⅰ	1		後期	1	
	介護総合演習Ⅱ	1		後期	2	
	介護総合演習Ⅲ	1		前期	3	
	介護総合演習Ⅳ	1		後期	3	
発達と老化の理解 (60h)	発達と老化Ⅰ	2		前期	1	
	発達と老化Ⅱ	2		後期	1	
認知症の理解 (60h)	認知症の理解Ⅰ	2		前期	2	
	認知症の理解Ⅱ	1		後期	2	
障害の理解 (60h)	障がいの理解Ⅰ	2		前期	2	
	障がいの理解Ⅱ	2		後期	2	
こころとからだのしくみ (120h)	医学一般	2		前期	1	
	心理学理論と心理的支援	2		前期	3	
	こころとからだのしくみⅠ	2		前期	2	
	こころとからだのしくみⅡ	2		後期	2	
医療的ケア (120h)	医療を必要とする人への介護Ⅰ	2		前期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅱ	2		前期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅲ	2		後期	3	
	医療を必要とする人への介護Ⅳ	1		後期	3	
小 計		88				

I
学
修II
資格取得
一覧III
人間生活
学部IV
教育人文
学部V
社会情報
デザイン学部VI
教職課程VII
諸課程VIII
単位認定IX
他大学との
単位互換X
大学院XI
施設XII
Q & AXIII
教務関連
規程学
び
の
ハ
ン
ド
ブ
ック

3 保育士資格 取得課程（人間福祉学科〈社会福祉・保育コース〉）

保育士資格は児童福祉法第18条の4に則るところの法定資格です。

保育士業務を行うには、都道府県知事に対して登録申請を行い、保育士登録簿への登載、保育士証の交付を受ける必要があることを承知しておいてください。（児童福祉法第18条の18）

なお、現在は、卒業年度に申請手続きを希望する学生に限り、大学が一括して「都道府県知事委託 保育士登録機関 登録事務処理センター」に申請を行います。

申請手続きの方法、時期、登録手数料等については別に連絡をしますので、各自の責任において申請手続きを行ってください。

保育士資格取得には、卒業に必要な単位を修め、かつ他に指定科目を修めて卒業する必要があります。

実習科目の履修にあたっては、別冊「実習の手引き」に記載されている実習の要件を全て満たすことが必要です。

3 -1 保育士（人間福祉学科〈社会福祉・保育コース〉）

1 教養科目

告示による教科目			指定保育士養成施設における教科目の開設状況				履修期	配当学年	備 考
教科目	授業形態	単位数	本学開設科目	授業形態	単位数				
					必修	選択			
外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	入門ゼミナール	講義	2		前期	1	
			地域と人間生活	講義	2		前・後	2・3・4	人間生活学部必修
			人間理解ワークショップ	講義		2	前・後	2・3・4	
			キャリアデザインとライフプラン	講義		2	前・後	1	
			リーガルリテラシー	講義		2	前・後	1	
			ジェンダーリテラシー	講義		2	前・後	1	
			子育てと環境	講義		2	前・後	1	
			女性と健康	講義		2	前・後	1	
			グローバル社会	講義		2	前・後	1	
			ネットワーク社会	講義		2	前・後	1	
			共生社会入門	講義		2	前・後	1	
			多様性と倫理	講義		2	前・後	1	
			持続可能な社会	講義		2	前・後	1	
			くらしのなかの日本国憲法	講義		2	前・後	1・2・3	
			はじめてのデータサイエンス	講義	2		後期	1	
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーション演習	演習	1		前・後	1	* の科目から 1 科目 1 単位必修
			英語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			英語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			英語Ⅱ a	演習		* 1	前期	2・3・4	
			英語Ⅱ b	演習		* 1	後期	2・3・4	
			中国語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			中国語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			中国語Ⅱ a	演習		* 1	前期	2・3・4	
			中国語Ⅱ b	演習		* 1	後期	2・3・4	
			朝鮮語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			朝鮮語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
			フランス語Ⅰ a	演習		* 1	前期	1	
			フランス語Ⅰ b	演習		* 1	後期	1	
体育	講義	1	女性の心と身体	講義	2		前期	1・2・3	
	実技	1	身体運動Ⅰ	実技	1		前期	1・2・3・4	
			身体運動Ⅱ	実技	1		後期	1・2・3・4	
小 計		10以上	小 計		11	36			

註：* の科目から 1 科目 1 単位以上履修し、12単位以上履修すること。

2 必修科目

告示別表第 1 による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況				履修期	配当 学年	備 考
系 列	教科目	授業 形態	単位数	本学開設科目	授業 形態	単位数				
						必修	選択			
保育の本質・ 目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		前期	1	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		後期	2	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉論	講義	2		前期	1	
	社会福祉	講義	2	社会福祉概論Ⅰ	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2		後期	2	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2		前期	2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2		前期	3	
保 育 の 対 象 の 理 解 に 関 する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2		前期	1	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2		後期	1	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2		後期	1	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2		前期	2	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2		前期	2	
保育の内容・ 方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育の計画と評価	講義	2		前期	3	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1		後期	1	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習Ⅰ（健康）	演習	2		後期	1	
				保育内容演習Ⅱ（人間関係）	演習	2		前期	2	
				保育内容演習Ⅲ（環境）	演習	2		後期	2	
				保育内容演習Ⅳ（言葉）	演習	2		前期	2	
				保育内容演習Ⅴ（表現）	演習	2		前期	3	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ（健康）	演習	2		前期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅱ（人間関係）	演習	2		後期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅲ（環境）	演習	2		前期	2	
				保育内容の理解と方法Ⅳ（言葉）	演習	2		後期	1	
				保育内容の理解と方法Ⅴ（表現）	演習	2		後期	2	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2		前期	2	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	1		後期	2	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2		後期	2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習	2		前期	2	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	1		後期	2	
				社会的養護Ⅲ	演習	1		前期	3	
	子育て支援	演習	1	子育て支援Ⅰ	演習	2		前期	3	
				子育て支援Ⅱ	演習	2		後期	3	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA	実習	2		前・後	3	
				保育実習ⅠB	実習	2		前・後	3	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習	2		通年	2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習	2		後期	3	
小 計			51	小 計			68			

3 選択必修科目

告示別表第2による教科目				指定保育士養成施設における教科目の開設状況				履修期	配当学年	備 考
系 列	教科目	授業 形態	単位数	本学開設科目	授業 形態	単位数				
						必修	選択			
保育の本質・ 目的に関する科目	各指定保育士養成 施設において設定		15 単 位 以 上	社会福祉概論Ⅱ	講義	2		後期	1	
				障害者福祉論	講義	2		後期	1	
				社会保障論Ⅰ	講義	2		前期	3	
				権利擁護と成年後見制度	講義		2	後期	2・3	
				地域福祉論Ⅰ	講義	2		前期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅰ	講義	2		後期	1	
保育の対象 の理解に関する科目				公的扶助論	講義	2		前期	2	
				社会保障論Ⅱ	講義		2	後期	3	
				地域福祉論Ⅱ	講義		2	後期	2	
				障がいの理解Ⅰ	講義		2	前期	2	
				障がいの理解Ⅱ	講義		2	後期	2	
				発達障害の理解	講義		2	後期	2	
保育の内容・ 方法に関する科目				ソーシャルワーク論Ⅱ	講義	2		前期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅲ	講義		2	後期	2	
				ソーシャルワーク論Ⅳ	講義		2	前期	3	
				ソーシャルワーク論Ⅴ	講義		2	後期	3	
				ソーシャルワーク論Ⅵ	講義		2	前期	4	
				ピアノ	演習		1	前・後	1・2・3・4	
保育実習	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ	実習	2	★保育実習Ⅱ	実習		2	後・前	3・4	★印の2科目 3単位、又は ☆印の2科目 3単位を履修 すること
				☆保育実習Ⅲ	実習		2	後・前	3・4	
	保育実習指導Ⅱ 又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	★保育実習指導Ⅱ	演習		1	前期	3	
				☆保育実習指導Ⅲ	演習		1	前期	3	
小 計			18以上	小 計			14	27		

註：「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」の3単位を含む18単位以上を履修すること。